

平成24年保育士試験問題


保育原理

(選択式20問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名・会場名・教室名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル（HB～B）で、濃くはっきりとマークすること。
鉛筆・シャープペンシル以外での記入は、0点になる場合があります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁)

(悪い例) … 

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」の一部として、不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 各保育所は、この指針において規定される保育の内容に係る基本原則に関する事項等を踏まえ、各保育所の実情に応じて創意工夫を図り、保育所の機能及び質の向上に努めなければならない。
- 2 保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている。
- 3 保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を生かして、その援助に当たらなければならない。
- 4 保育所保育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このため保育士は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児とともによりよい保育環境を創造するように努めるものとする。
- 5 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。

問2 次の文は、「保育所保育指針」第1章「総則」の4「保育所の社会的責任」の一部である。(A)～(E)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 保育所は、子どもの(A)に十分配慮するとともに、子ども一人一人の(B)を尊重して保育を行わなければならない。
- ・ 保育所は、地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に、当該保育所が行う(C)の内容を適切に説明するよう努めなければならない。
- ・ 保育所は、入所する子ども等の(D)を適切に取り扱うとともに、保護者の(E)などに対し、その解決を図るよう努めなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	ニーズ	個性	支援	記録	不安
2	人権	人格	保育	個人情報	苦情
3	実態	発達	生活	権利	問題
4	最善の利益	生活	保育	意見	意向
5	ニーズ	主体性	養護と教育	自発性	要望

問3 次の文は、倉橋惣三についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 幼児生活の価値を認め、幼児の生活を保障することの必要性を提唱した。
- B 幼児の生活を「さながらにしておく」ことが大切であるとし、そこでの幼児の自発生活を尊重した。
- C 『幼稚園雑草』『育ての心』『幼児教育書簡』など多数の著作がある。
- D 1917（大正6）年、東京女子高等師範学校附属幼稚園の主事になり、後に日本の幼児教育界の理論的指導者となった。
- E 1936（昭和11）年、保育問題研究会を結成し、その会長を務めた。

（組み合わせ）

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	○	×	○	×
3	○	○	×	×	○
4	○	×	○	○	○
5	×	○	○	○	×

問4 次の文は、保育の発展に寄与した人物とその主な功績についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A コダーイ (Kodály, Z.) は、ハンガリーの作曲家である。民族音楽による音楽教育「コダーイ・システム」を創始し、子どもの内面を育て、人間形成をはかろうとした。
- B オーベルラン (Oberlin, J.F.) は、フランスにおいて、放任されていた子どもたちのための教育を始めた。このうちの幼児学校（幼児保護所）では、子どもの保護のみならず、楽しく遊ぶことや教育も実施されたが、国外に影響を及ぼすことはなかった。
- C ルソー (Rousseau, J.-J.) は、フランスの啓蒙思想家であり新教育運動の先駆者である。社会中心主義を基本原理とする『エミール』を著した。
- D フレーベル (Fröbel, F.W.) は、ドイツの教育者である。世界で最初の幼稚園を創設した彼の哲学的な人間教育に根ざした幼稚園教育は世界の幼児教育界に大きな影響を与えた。
- E エレン・ケイ (Key, E.) は、スウェーデンの女性解放運動家であり教職に就く傍ら多くの著作を世に出した。代表作に『児童の世紀』がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	○	×	×	○
3	○	×	×	○	○
4	×	○	○	×	○
5	×	×	○	○	○

問5 次の文は、2008年に「児童福祉法」に法定化された家庭的保育事業についての記述である。(A)～(E)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 家庭的保育事業とは、乳児又は幼児であって、(A)が「児童福祉法」第24条第1項に規定する児童に該当すると認めるものについて、(B)の居宅その他の場所において、(B)による保育を行う事業をいう。
- ・ 家庭的保育事業を実施するにあたっては(C)が策定され、そこには(B)の(D)や(E)が定められている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	市町村	家庭的保育者	ガイドライン	要件	研修
2	県	保育士	法律	資格	条件
3	県	家庭的保育者	ガイドライン	要件	研修
4	市町村	保育士	規程	資格	条件
5	国	保育士	法律	資格	要件

問6 次の文は、「子どもの最善の利益」についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 1922年の「世界児童憲章」には「子どもの最善の利益」という記述がある。
- B 「子どもの最善の利益」という言葉が普及するようになったのは、「児童の権利に関する条約」が国際連合で採択された年に、同時に日本も批准してからである。
- C 「児童の権利に関する条約」は第6条ですべての子どもが生命に対する固有の権利を有することを認め、子どもの生存及び発達を可能な最大限の範囲において確保することを定めている。
- D 1999年改訂(2000年施行)の「保育所保育指針」において、「乳幼児の最善の利益」という言葉が取り入れられた。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	○	×

問7 次の文のうち、「保育所保育指針」第2章「子どもの発達」の1「乳幼児期の発達の特性」の一部として、不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 子どもは、大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることにより、情緒が安定するとともに、人への信頼感が育つ。
- 2 子どもは、子どもを取り巻く環境に主体的に関わることにより、心身の発達が促される。
- 3 子どもは、大人との信頼関係を基にして、子ども同士の関係を持つようになるが、身体的な発達及び知的な発達、情緒的、社会的及び道徳的な発達は大人との関わりを通して促されることが多い。
- 4 乳幼児期は、生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いにより、一人一人の心身の発達の個人差が大きい。
- 5 乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われる。

問8 次の文は、「保育所保育指針」第4章「保育の計画及び評価」のウ「障害のある子どもの保育」の一部である。(A)～(E)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- (ア) 障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの(A)や障害の状態を把握し、適切な(B)の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けること。また、子どもの(C)に応じた保育を実施する観点から、家庭や関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること。
- (イ) 保育の展開に当たっては、その子どもの発達の状況や日々の状態によっては、(D)にとらわれず、柔軟に保育したり、職員の連携体制の中で個別の関わりが十分行えるようにすること。
- (ウ) 家庭との連携を密にし、保護者との相互理解を図りながら、適切に対応すること。
- (エ) 専門機関との連携を図り、必要に応じて(E)。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	発達過程	指導	能力	障害の程度	情報を提供すること
2	家庭の状態	援助	状況	集団	助言等を得ること
3	発達過程	関係	個性	障害の程度	家庭に知らせること
4	家庭の状態	環境	個性	指導計画	情報を提供すること
5	発達過程	環境	状況	指導計画	助言等を得ること

問9 次の文は、保育制度の歴史に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 明治32(1899)年に、文部省は「幼稚園保育及設備規程」を公布し、幼稚園の保育目的、編制、組織、保育内容、施設設備に関して、国として最初の基準を定め、入園対象の年齢、保育時間、保姆1人あたりの幼児数等を規定した。
- B 「幼稚園令」は、わが国の幼稚園に関する最初の勅令として、大正15(1926)年に公布された。そこでは、幼稚園の目的を「家庭教育を補う」とし、入園児は5歳児に限定されていた。
- C 昭和38(1963)年に、文部省と厚生省の連名で「幼稚園と保育所との関係について」という通知が出された。
- D 昭和40(1965)年に、厚生省は、保育所における独自の保育内容を明らかにしたものとして「保育所保育指針」を発表した。3歳以上の保育内容としては、幼稚園と同じ5領域が設定されていた。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問 10 次のある保育所での【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

K君（4歳4か月）は、R君（5歳2か月）がクリップで作ったカタツムリをみて自分も作りたくなり、R君にそばにあるクリップを使っていいかどうかを聞いてから、作り始める。しかし思うようにできず、保育士に作り方を書いた紙をだしてもらい、それを見ながら一人で時間をかけて作る。カタツムリができあがった時に、片付けの時間になりカタツムリを片付ける場所を探している。隣でカタツムリを作っていたM君（4歳8か月）は、自分の作りかけのカタツムリをさっさともとに戻し片付けてから、K君に「おれが片付けてやる！」といいながら取り上げ、カタツムリをバラバラにする。K君は大声で泣きながら保育士に駆け寄る。

【設問】

「保育所保育指針」に規定される保育の内容に係る事項を基本とした時、この事例において保育士がまず第一に行う対応として適切なものを一つ選びなさい。

- 1 4歳という年齢を考えて、善悪の区別がついてもいい発達過程であることから、M君に注意することを第一に行う。
- 2 4歳という年齢を考えて、一生懸命に作ったカタツムリを壊された悲しい気持ちを自分でM君にきちんと伝えるよう、K君に話すことを第一に行う。
- 3 M君はいつも人の遊びを壊してしまうことがあると感じていたので、M君に壊した理由を聞くことを第一に行う。
- 4 K君をなだめて、少し落ち着いてからどうして泣いているのかを聞くことを第一に行う。
- 5 K君とM君を呼んで理由をはっきりさせ、悪いことをしたときは謝るといういつものきまりをM君に伝えて、一貫した対応をとることを第一に行う。

問 11 次の文は、「保育所保育指針」第 1 章「総則」の（3）「保育の環境」の一部である。（ A ）～（ E ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や（ A ）などの物的環境、更には（ B ）や（ C ）の事象などがある。保育所は、こうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの（ D ）が豊かなものとなるよう、次の事項に留意しつつ、（ E ）に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。

（組み合わせ）

	A	B	C	D	E
1	園庭	行事	地域	遊び	総合的
2	遊具	集団	生活	活動	個別
3	遊具	自然	社会	生活	計画的
4	教材	遊び	生活	保育	計画的
5	素材	生活	社会	環境	個別

問 12 次の文は、「保育所保育指針」第 4 章「保育の計画及び評価」の（2）「指導計画」の一部である。（ A ）～（ E ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 子ども一人一人の（ A ）や状況を十分に踏まえること。
- ・ 保育所の生活における子どもの（ A ）を見通し、（ B ）の連続性、季節の変化などを考慮し、（ C ）に即した具体的なねらい及び内容を設定すること。
- ・ 具体的なねらいが達成されるよう、子どもの（ B ）する姿や（ D ）を大切に適切な環境を構成し、子どもが（ E ）に活動できるようにすること。

（組み合わせ）

	A	B	C	D	E
1	興味や関心	生活	遊び	意欲	積極的
2	発達過程	発達	保育課程	発想	活発
3	発達過程	生活	子どもの実態	発想	主体的
4	発達過程	生活	保育課程	意欲	意欲的
5	興味や関心	発達	子どもの実態	生活	主体的

問 13 次の文は、「保育所保育指針」の第 5 章「健康及び安全」の一部である。

(A) ～ (E) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ア 保育中に (A) や (B) が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医や子どものかかりつけ医等と相談し、適切な処置を行うこと。看護師等が配置されている場合には、その (C) を生かした対応を図ること。
- イ (D) やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や (E) に連絡し、協力を求めること。また、(D) に関する保育所の対応方法等について、あらかじめ関係機関の協力を得ておくこと。看護師等が配置されている場合には、その (C) を生かした対応を図ること。
- ウ 子どもの疾病等の事態に備え、医務室等の環境を整え、救急用の薬品、材料等を常備し、適切な管理の下に (E) が対応できるようにしておくこと。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	感染症	傷害	緊急性	障害	全職員
2	事故	感染症	専門性	体調不良	看護師
3	事故	傷害	緊急性	感染症	保育士
4	体調不良	傷害	専門性	感染症	全職員
5	体調不良	感染症	特殊性	障害	看護師

問 14 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

地域子育て支援センターに子ども（3歳、男児）と一緒に遊びに来た母親が、S保育士に、「子育てにいらいらしてつい子どもを叩いてしまう」と、相談してきた。子どもを保育室で預かり、S保育士が面接室で話を聞くと、実は長年にわたって夫から暴力を受けていること、最近はお子もの前でも夫が暴力をふるうこと、離婚をしようかと悩んでいることを打ち明けた。S保育士は、まず母親が大変な思いをしていることに共感的理解を示し、労った。

【設問】

この後のS保育士の対応として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 母親の子育てを励まし、子育て支援センターに来ればいつでも話を聴くことを伝える。
- 2 一人で悩んでも結論は出ないので、夫にも子育て支援センターに来てもらい、話し合うことを勧める。
- 3 これからも夫の暴力は止まないであろうという見通しを示し、今の生活は子どもに悪影響を与えていることを説明して、母親が離婚を決心するよう支援する。
- 4 離婚後の子育てや生活の大変さを伝え、感情的にならずに慎重に考えるように助言する。
- 5 現状は児童虐待にあたりと判断し、専門機関の相談援助につなげる。

問 15 次の文は、保育所における相談援助活動に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 保育士と保護者とが子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感し合うことによって、保護者の子育てへの意欲や自信を高める。
- B 地域の子育て家庭への支援は、保育所に入所している子どもの保護者への支援とは異なるので、保護者が子育てに自信を持ち、子育てを楽しいと感じることができるような保育所や保育士の働きかけ、環境づくりが望まれる。
- C 保護者支援は保育に支障のない範囲で行うことが原則であり、送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換か、あるいは別の機会を設けて相談に応じたり個別面談を行うか、保育所の特性に応じていずれかを選択して行う。
- D それぞれの保護者や子どもの状況を理解することは大切だが、子どもの最善の利益という観点からは、まずは保護者の養育力の向上を図ることを優先する。
- E 保護者と子どもとの安定した関係を培うことが最優先であり、保護者同士の関係や地域と子どもや保護者との関係性を高めることについては、保護者に任せる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	○	×
2	○	○	×	×	○
3	○	○	×	×	×
4	○	×	×	×	×
5	×	○	×	○	○

問 16 次の文は、「保育所児童保育要録」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 保育所での子どもの育ちをそれ以降の生活や学びへとつなげていくための資料である。
- B 保育所生活を通して子どもが育ってきた過程を振り返り、その姿や発達の状況をとらえ的確に記録する。
- C 保育所から直接、就学先の小学校に手渡すことが義務づけられている。
- D 保護者との信頼関係を基盤として、保護者の思いを踏まえつつ記載するが、要録が小学校に送付されることについては保護者には伝えない。
- E 保育における養護及び教育に関わる5領域の視点を踏まえ、一人一人の子どもの良さや全体像が伝わるよう工夫して記す。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	○	○
2	○	○	×	×	○
3	○	○	×	×	×
4	○	×	×	×	○
5	×	○	○	○	×

問 17 次の文は、「保育所保育指針」第3章「保育の内容」の(4)「3歳以上児の保育に関わる配慮事項」の一部である。(A)～(E)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

保育所の保育が、小学校以降の(A)や(B)の基盤の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい(A)を通して、(C)な(D)や(E)な(A)態度などの基礎を培うようにすること。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	学習	生活	後のびするよう	思考	積極的
2	生活	学習	創造的	思考	主体的
3	生活	教育	積極的	学習	意欲的
4	生活	活動	主体的	活動	自発的
5	学習	生活	創造的	活動	積極的

問 18 次の文は、「保育所保育指針」第 4 章「保育の計画及び評価」の 2 「保育の内容等の自己評価」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 自己評価は、「保育士等の自己評価」「保育所の自己評価」の 2 つを行うこととしている。
- B 保育士等が自己評価をする際、小学校との連携が大切なので、子どもの心の育ちよりも子どもの活動の結果を重要なものとして評価する。
- C 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、保育実践を振り返り、自己評価を通して、専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。
- D 自己評価は、保育の質の向上のために行うものであるから、保育所は、自己評価の結果を公表するよう努めなければならない。
- E 保育の内容等を評価するにあたって、保護者や地域の住民の方々の意見を聴くことが望まれている。これは、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（旧児童福祉施設最低基準）」（昭和 23 年厚生省令第 63 号）第 36 条の趣旨を踏まえている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	×	○	○	○
3	×	○	×	×	○
4	×	×	○	○	○
5	×	×	×	○	×

問 19～問 20 次のある保育所での【事例】を読んで、問 19～問 20 に答えなさい。

【事例】

Jちゃん（1歳児）は第一子である。父親は仕事が忙しく育児に参加することがほとんどない。母親には手助けしてくれる親族や友達もなく、他の保護者ともほとんど話をしない。最近では育児に疲れ、不安な様子がみられる。ある朝、登園した母親は保育室でT保育士に向かって思い詰めた表情で、「私はもう子育てに疲れました。本当は子どもなんて大嫌いなんです。」と言うと、激しく泣き出した。（問 19）

ちょうどその時、内線電話で、T保育士は事務室に来るようにと呼ばれた。（問 20）

問 19 「保育所保育指針」に規定される保護者に対する支援に沿ったT保育士の対応として、最も適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 「お父さんに、もう少し育児を手伝ってもらったらどうですか。」と助言する。
- 2 「お母さんは子育てに向いていないんですね。」と受容する。
- 3 「どの母親も子どもが1歳の頃は大変で、がんばっているんですよ。」と説明する。
- 4 「お母さんは、これまでとても努力してこられたのですね。」と支持する。
- 5 「子どもが嫌いな人もいますよね。」と慰める。

問 20 「保育所保育指針」に規定される保護者に対する支援に沿ったT保育士の対応として、最も適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 「今、Jちゃんのお母さんが泣いているので、事務室に行くことはできません。」と話し、保育室でそのまま話し続ける。
- 2 「お時間があれば、少し話していきませんか。」とJちゃんの母親を事務室に誘う。
- 3 園長・主任・看護師に保育室にきてもらい、一緒に話をきく。
- 4 ちょうど登園してきた他の保護者に、Jちゃんの母親の話を聞いてくれるよう頼み、事務室へ行く。
- 5 Jちゃんの母親に「お母さん、大丈夫ですよ。今度ゆっくり話をしましょうね。」と、仕事にでかけるよう促す。